

平成24年度の各会計決算を審査する決算特別委員会(藤井英子委員長、伊藤源康副委員長・9月20日、24日、25日)での質疑(Q)と答弁(A)のいくつかを要約して紹介します。

# 質疑あれこれ

## 収支の黒字分を市民に還元してはどうか

**Q** 実質収支が19億9千万円の黒字となったが、行政サービスの向上や市民負担の軽減に充ててはどうか。

**A** 合併による国からの交付税20億円の特例措置がなくなることから、市の貯金に当たる基金に積んでいる。この措置がない状況でも、十分に市民サービスに対応できる行政運営を心がけている。

に20億円を支出している過去の経験値からすると積めるときには積んでおきたい。

## 市の借金のうち国からの交付税算入額は

**Q** 市債残高のうち国からの地方交付税で手当てされる試算額はいくらか。

**A** 564億6千万円の残高に対し約384億円の率にして68%は国の手当てが想定される。純粋な市の税負担部分は約180億円と分析している。

## 財政調整基金の適切な額は

**Q** 財政調整基金、いわゆる貯金に相当する基金の残高が昨年度末で約52億9千万円だが適切な額はいくらか。

**A** 標準財政規模の10%ほど、本市だと30億円が妥当だが、これは最低ラインと考えている。今年も大雨、台風などの災害が発生しているが、東日本大震災対応の際は一気に

## 市の審議会等に占める女性の割合は

**Q** 市、教育委員会に設置されている委員会や審議会での女性の割合の調査を継続しているか。

**A** 調査は行っており、現状は約3割となっている。審議会は、あて職も多く女性の登用が難しいところもあるが、公募の委員においては、女性に多く応募していただければよ

## まちづくり交付金の年度末残の処理は

**Q** 年度末、目的を持った繰越金以外に残金が生じる場合、無理に使わずに次年度に使用したいとの声があるがどうか。

**A** 少額の残金の繰り越しについては、有効に活用してもらえようという方向で内部協議を行っている。



定期的に検診を受けましょう

## 人口減少が進行しているが内容は

**Q** 合併当初と比べ約4千人人口減となっているが、年平均660人の減少だが、その内容は何か。

**A** 過去5年平均で出生数が年705人、死亡数が1254人で自然動態だけで549人の減少となっている。これに加え、転入と転出の差となる年100人余りが社会動態として減少している。

## 生活保護者の通院に車を認める考えは

**Q** 通院時など自動車使用を認めるべきと思うが。

**A** 生活保護世帯の自動車保有は基本的には認められていない。通院手段は医師の判断で移送費を支給している。例えば、事故を起こした場合の問題もある。制度の中で通院方法をケースワーカーも説明している。

## 各種検診受診率が向上しているが今後は

**Q** 大腸がん、乳房甲状腺子宮がんの検診受診率が目標値を大幅に上回り実績を上げているが要因と目標値の上方修正は考えていないか。

**A** 保健推進委員を通じて地域での啓発や広報紙での周知、また、検診の無料クーポンの活用などが要因と思う。目標値については、この状況を踏まえて、さらに高めるなどの再設定を検討したい。

## 外国人観光客の込みに呼応した対策は

**Q** 昨年度の外国人観光客の入込数は6041人、チャーター便も36便が運航されたが、訪れた割合の大きい国に特化してはどうか。

**A** 国や地域別では台湾3589人、香港886人、韓国672人、中国324人、米国146人であり、26便が台湾便である。この状況から、市長が知事等とともに台湾での



台湾からの観光客約600人を見込む(秋季チャーター便第1便 10/19)

誘致活動を展開し集客を図っている。

## 農業の法人化をどのように見ているか

**Q** 法人化とその経営状況を市はどう見ているか。

**A** 法人化で面積の拡大、低コスト化が図られ所得に大きく貢献しており、対外的信用を得られることがプラスに作用している。今後、8営農組織が4つの法人設立を目指している。

## 農産物の東電に対する賠償請求の状況は

**Q** 農家からの東電に対する賠償請求額と支払われた額はいくらか。

**A** 農協が窓口の8月までの請求分は約6億8400万円、そのうち89.3%に当たる6億1100万円が支払われている。

## 花巻市の法人市民税の状況は

**Q** 花巻市の法人市民税が他市と比べると高いとの指摘があるがどうか。

**A** 標準税率に上乘せしており、標準税率を用いている自治体と比べると上回っているが、市のさまざまな産業支援策を総合的に考慮いただきたい。

## シアン流出事故対応の支出総額と請求は

**Q** シアン廃液流出事故から、これまでの費用総額と内容および負担者は

## ドクターヘリの運用状況は

**Q** ドクターヘリの効用と出勤回数について、また、運用できないケースはあったのか。

**A** 総額は5590万円で、内訳は調整池の鉄塩循環対策費や水質測定など多岐にわたる。原因者が負担するとの協定書に基づき進めている。

## 保育園施設の改修修繕の取り組みは

**Q** 年次計画に沿って改修修繕に取り組んでいると思うが進捗率は。

**A** 平成24年度は3園で、下水道接続、クロス張り替え、給水管改修を行った。平成21年から10年間の計画が進め、要望の約半分が終了している。

## 学校等が全国大会出場した際の支援は

**Q** 小中学校の団体・個人が全国大会に出場した際の支援や助成は。

**A** スポーツ大会は、小中学生が宿泊交通費の2分の1、高校生以上一般が4分の1の助成。文化活動費は、交通費、宿泊費、楽器等運搬費の団体活動には2分の1以内、個人は4分の1以内となっている。文化、スポーツ両面での人づくりの観点から、



患者を収容し離陸するドクターヘリ(東和小学校駐車場)

さらなる充実と平準化を検討する。

## 小中学校の不登校の状況と対策は

**Q** 小中学校の不登校者数が減っているとの報告だが、人数と減少要因は。

**A** 平成24年度で小学生12人、中学生46人。担任だけでなくチームを組み対応している。また、市で配置している生徒支援員の家庭訪問や、学校の別室登校を行うなどしている。